

ぎょうだ  
**歴史系譜** 217  
**忍城物語** 7

成田氏の登場

今年の秋には、忍城水攻めを題材にした映画「のぼうの城」が公開されます。今回の歴史系譜から「忍城」に焦点を当てて、さまざまな角度からその歴史を紹介してみたいと思います。

忍城を拠点に戦国時代を生き抜いた成田氏ですが、その起源は平安時代までさかのぼります。成田氏の菩提寺である熊谷市の龍淵寺が所蔵する「成田系図」によれば、国司(国の長官)として武蔵国に赴任してきた藤原忠基の子宗直が騎西郡司を務め、その子孫助高が成田姓を名乗ったとされます。

このころの成田氏に関する有名な逸話があります。源氏の棟梁源頼義が安倍貞任を討つため、奥州に向かう途中、武蔵国を通過しました。成田助高は頼義を出迎え両者は道で出会いますが、お互いに下馬をしてあいさつを交わしました。以後、成田家では大将同士が礼を交わすときは下馬するのが作法になったとされ、このことが後に鎌倉の鶴丘八幡宮で上杉謙信の怒りを買う原因となりました。



成田氏館跡

た。話の真偽は定かではありませんが、名門の血統を引くことを自認していた成田氏らしい逸話です。

源頼朝が平家を討つために挙兵すると、成田氏は源氏に従い、鎌倉幕府の御家人となりました。頼朝は文治5年(1189)に平泉の藤原泰衡を討つために出兵しますが、この中に成田七郎助綱がいました。成田氏はこのときに戦功をあげ、陸奥国鹿角郡内(秋田県鹿角市)に領地を与えられたとされます。また、鎌倉時代中ごろには幕府が閑院内裏(上皇や天皇の別宅)や京都六条八幡宮の造営費用を御家人に求めたときの目録にも、多くの武蔵武士たちと共に成田氏が名を連ねています。

しかし、鎌倉時代後期になると成田氏の地位に変化がみられます。親戚の安保行員や子の基員が陸奥国の領地をはじめ、成田氏の本拠地である成田郷の支配権を譲り受けるようになりました。さらに基員は安保本家から独立して、成田氏の名跡を継ぎ、成田姓を名乗ったとされます。この安保系の成田氏が北武蔵の領主として戦国時代を迎えることとなります。

(郷土博物館 鈴木紀三雄)

このコーナーでは、行田の歴史や名所、名物などを行田ゼリーフライキャラクターのこぜにちゃんが分かりやすく紹介します。

**こぜにちゃんが**  
**行く!**  
 with フラベス

**ゼリーフライ**

みなさん！お待たせしました。テレビや雑誌などで取り上げられ、今や行田を代表するB級ご当地グルメ「ゼリーフライ」を紹介します。

100年近く行田で愛されているゼリーフライは、おからとジャガイモをベースに細かく刻んだ野菜を混ぜ合わせ、小判型に素揚げをして、ソースに浸したものだ(みんな知ってると思うけど…)。

行田を紹介するときは、必ずゼリーフライを話題に挙げてください。珍しい名前だから、注目されること間違いなしだよ。みんなと一緒に、行田のゼリーフライを全国にPRしていきましょう。

フラベスは来月紹介するから待っててね。



撮影協力：かねつき堂

**今月の表紙**

3月18日、「のぼうの城フェスティバルin行田」が開催され、大勢の来場者でにぎわいました。

戦国武将隊によるイベント「忍城春の陣」では、忍城おもてなし甲冑隊を含め4武将隊が集結。迫力のある演舞の披露やユーモア溢れるトーク、来場者との記念撮影会などを行い、フェスティバルに訪れた方全員に最高の「おもてなし」をしていました。(関連記事26ページ)

■市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。

■市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。

■市報をカセットテープに録音したものを希望者宅にお届けします。

ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



市報ぎょうだは再生紙を使用しています